

シンガポール・テレコム (STEL)

共同経済特区が創設されるマレーシアのジョホール州南部で、合併事業でAI(人工知能)対応データセンター建設予定
 シンガポール | 無線通信 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG ST:SP | REUTERS STEL.SI

- 2026/3期1H (4-9月) は営業収益が前年同期比1.2%減、基礎的純利益が13.7%増。豪州消費者事業およびデータセンター関連NCS事業が堅調。
- 海外の戦略的出資先に関する税引き後持分法投資利益は、タイのAIS社およびインドのバルティ・エアテル社の貢献により18%増益となった。
- シンガポールとマレーシアの両国政府はマレーシア南端ジョホール州南部にシンガポール・マレーシアの共同経済特区 (JS-SEZ) を創設予定。

What is the news?

11/12発表の2026/3期1H (4-9月) は、営業収益が前年同期比1.2%減の69.10億SGD、EBITDAが同1.8%増の19.82億SGD、戦略的出資先の海外関連会社からの税引き後持分法投資利益が同18.0%増の13.79億SGD、一時的要因の特別損益を除く基礎的純利益が同13.7%増の13.53億SGDだった。為替変動の影響を除くベースでは、営業収益が1.9%増、EBITDAが4.9%増だった。また、戦略的出資先のタイ・インタッチ・ホールディングスがガルフ・エナジー社と統合したこと、およびインドのバルティ・エアテル社への持分を一部売却したことに伴う特別利益により、会計上の純利益が2.8倍の34.04億SGDとなった。豪州消費者向け事業、およびデータセンター関連ビジネスの伸びを受けたNCS事業が堅調に推移したほか、戦略的出資先からの持分法投資利益の中ではインドとタイが業績に寄与した。

1Hのセグメント別の業績は以下の通り。①シンガポール消費者事業は、営業収益が前年同期比0.9%減の18.60億SGD、EBITDAが同3.2%減の7.32億SGD。②オプタス(豪州消費者)事業は、営業収益が同1.7%増の40.90億SGD、EBITDAが同7.2%増の11.87億SGD。③ICT(情報通信技術)および通信キャリアを含むデジタルインフラ事業は、営業収益が同1.5%減の2.16億SGD、EBITDAが同0.5%減の1.10億SGD。④ITサービス・通信エンジニアリングのNCS事業は、営業収益が同6.2%増の15.20億SGD、EBITDAが同30.1%増の2.20億SGD。⑤海外関連会社からの税引き前投資利益の内訳は、(1)テレコムセル(インドネシア)が通信業界の競争激化が響き前年同期比18.0%減の2.91億SGD、(2)AIS(タイ)が同44.9%増の2.68億SGD、(3)Globe(フィリピン)が12.7%減の1.36億SGD、(4)エアテル・グループ(インド)が同76.7%増の6.99億SGDだった。

How do we view this?

通期会社計画は、海外関連会社からの持分法投資利益を除くEBIT(利払い前・税引き前利益)を前期比1桁パーセント台後半~10%台の伸び率(従来計画は1桁台後半の伸び率)、海外関連会社からの税引き前投資利益を11億SGD(同10億SGD)へ上方修正した。短期的には、オプタスが9月に救急など緊急番号が不通になる深刻な通信障害を起こしており、当局が調査中。罰金や設備投資が業績を圧迫する可能性が残っている。

他方、同社はデータセンター事業を加速中。シンガポール、インドネシア、タイで新規開発が進んでおり、データセンター事業子会社の「ネグゼラ」のデータセンター総容量は2025年3月末の62メガワットから2026年末までに200メガワットに拡大する見通しと、3年以内としていた200メガワット目標達成が大幅に前倒しとなる見通しである。

また、テレコム・マレーシアと合併で、マレーシア南端ジョホール州に人工知能(AI)対応の大型データセンターを建設予定。シンガポールとマレーシアの両国政府は2025年1月、国境を接するマレーシアのジョホール州南部に共同経済特区(JS-SEZ)の設立で最終合意。2026年12月までに高速鉄道RTS Linkを運行予定。同社事業へ追い風になると見込まれる。

業績推移

※参考レート 1SGD=123.17円

事業年度	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3F	2027/3F
売上高(百万SGD)	14,624	14,127	14,146	14,392	14,914
期利益(百万SGD)	2,225	795	4,017	3,974	3,341
;(SGD)	0.13	0.05	0.24	0.24	0.20
PER(倍)	16.48	45.96	13.70	19.04	22.85
;(SGD)	1.51	1.45	1.51	1.63	1.64
PBR(倍)	1.42	1.58	2.18	2.80	2.79
当(SGD)	0.10	0.15	0.17	0.19	0.20
配当利回り(%)	4.67	6.53	5.17	4.16	4.38

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) 0.19 (予想はBloomberg)
 終値(SGD) 4.57 2026/1/20

会社概要

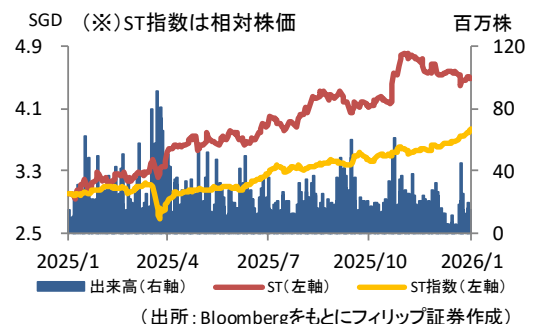
シンガポール最大、アジア最大級の通信会社で創業から約140年の歴史を有する。固定電話、携帯、データ通信、インターネット、テレビ、インフォコム・テクノロジー(通信関連技術)やデジタル・ソリューションなどのサービスを提供している。主力の事業エリアはシンガポールとオーストラリアである。

同社の事業セグメントは、主に、①「シンガポール消費者事業」、②子会社オプタス(現地市場シェア2位)を通じて展開する「オーストラリア消費者事業」、③企業向けのインフラストラクチャおよびテクノロジーサービスを展開する「全社エンタープライズ事業」、④ITサービスと通信エンジニアリングの「NCS事業」に分かれる。

その他に、筆頭株主の出資先であり、戦略的に重要な「海外の地域関連会社」群として、インド・南アフリカ・アフリカで展開するパーティ・エアテル(インドで同1位)、インドネシア最大手テレコム・インドネシア(TLKM)の携帯子会社Telkomsel(現地で同1位)、タイ2位のアドバンス・インフォ・サービス(ADVANC)、フィリピンのGlobe(現地で同2位)を擁し、20か国以上で7億人規模のモバイル顧客をカバーしている。

企業データ(2026/1/21)

ベータ値	0.79
時価総額(百万SGD)	74,027
企業価値=EV(百万SGD)	83,215
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	93.4



主要株主(2026/1)

1. テマセク・ホールディングス	(%) 50.41
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.71
3. VANGUARD GROUP	1.94

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。